

### コルグ MR-2 の特性を考慮した録音の考え方

「場の音」の録音については「マニュアル・モード」が基本です。

- 1 マイク感度については（大音量音楽の録音ではないので）“High”を選択します。
- 2 録音レベルの設定は、MR-2 の場合、標準的な設定が-12dB となっていますが、0dB を目途に現場の状況によって調整します。  
理由ですが、オーバーオールなマイクの感度が意外に低いように感じるからです。
- 3 各種リミッターの設定：
  - －Low Cut は野外では“On”（風音に弱い）、室内では“Off”
  - －リミッターは“Soft”
  - －St Enhanser は“Type3”（最もステレオ感を強調）
- 4 録音フォーマットの選択
  - －基本は WAV 16bit/44.1kHz（後々の手間を最小限にするため）
  - －DSDIFF で録音する場合はパソコンと時間に“余裕”が必要

#### MR-2 の録音データの詳細とその処理

- 1 年月日フォルダが基本（例：2011-03-10）。
- 2 上記のフォルダを MR-2 から切り取り、PC の AudioGate に対応したフォルダ（例：「Song List」）に保管します。  
DSDIFF 録音の場合、AudioGate のソング・リストは直ちにこれを認識しますが、WAV 16bit/44.1kHz 録音の場合は、この年月日フォルダを展開して、音楽ファイルそのものを「オーディオファイルを追加する」で AudioGate に認識させなければなりません。
- 3 この後の処理：  
AudioGate で各種の処理を行った後、保存フォルダとして「My Music」へ出力し、必要があれば、再度 AudioGate へソング・リストとして取り込むことがよいと思われます。DSDIFF で録音したデータを 16bit/44.1kHz に変換した場合、ファイルの種類は「(例えば) Winamp media file」から「KORG AudioGate ソング・リスト」へ換わるはずですが。

以上